

四半期報告書

(第117期第1四半期)

自 平成24年4月1日

至 平成24年6月30日



TDK株式会社

東京都中央区日本橋一丁目13番1号

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- | | |
|---------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 1 |

第2 事業の状況

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営上の重要な契約等 | 2 |
| 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 3 |

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- | | |
|-------------------------------|---|
| (1) 株式の総数等 | 6 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 6 |
| (3) 行使価格修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 6 |
| (4) ライツプランの内容 | 6 |
| (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 6 |
| (6) 大株主の状況 | 6 |
| (7) 議決権の状況 | 7 |

- | | |
|---------|---|
| 2 役員の状況 | 7 |
|---------|---|

第4 経理の状況 8

1 四半期連結財務諸表

- | | |
|------------------------------|----|
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 9 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 11 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 12 |

- | | |
|-------|----|
| 2 その他 | 27 |
|-------|----|

第二部 提出会社の保証会社等の情報 28

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【四半期会計期間】	第117期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	TDK株式会社
【英訳名】	TDK CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上釜 健宏
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋一丁目13番1号
【電話番号】	03（5201）7116
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 桃塚 高和
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋一丁目13番1号
【電話番号】	03（5201）7116
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 桃塚 高和
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第116期 前第1四半期 連結累計期間	第117期 当第1四半期 連結累計期間	第116期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高（百万円）	206,198	208,653	814,497
継続事業税引前四半期（当期）純利益（百万円）	3,695	8,845	12,245
当社株主に帰属する四半期（当期）純利益又は四半期（当期）純損失（△）（百万円）	2,423	4,471	△ 2,454
当社株主に帰属する四半期（当期）包括利益（百万円）	△ 2,282	△ 22,479	△ 16,406
株主資本（百万円）	526,987	470,696	498,159
純資産額（百万円）	532,381	484,727	512,046
総資産額（百万円）	1,065,717	1,046,528	1,072,829
1株当たり株主資本（円）	4,085.19	3,739.05	3,957.20
1株当たり当社株主に帰属する四半期（当期）純利益金額又は四半期（当期）純損失金額（△）（円）	18.78	35.52	△ 19.06
潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期（当期）純利益金額又は四半期（当期）純損失金額（△）（円）	18.77	34.71	△ 21.42
株主資本比率（％）	49.4	45.0	46.4
営業活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	14,042	21,452	55,334
投資活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	7,335	△ 20,346	△ 29,898
財務活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	981	4,425	12,929
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高（百万円）	148,648	165,731	167,015

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書 205-20「財務諸表の表示－非継続事業」の規定に基づき、第116期より、ディスプレイ事業に係る損益は非継続事業として連結損益計算書に表示しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済を概観しますと、先進諸国においては欧州地域における政府債務問題に起因する金融資本市場の混乱やそれに伴う経済活動の減速が続き、新興国においても欧州地域向けの輸出減少や個人消費及び企業投資の冷え込み等により経済成長の減速が見られ、今後の世界経済の見通しに対する不透明感 は払拭されておられません。そういった世界経済の中、当社グループの連結業績に影響を与えるエレクトロニクス市場を概観しますと、その生産水準はセット製品（最終財）により異なっております。需要が拡大しているスマートフォンを中心とした携帯電話及びタブレット端末の生産は前年同期の生産水準を上回り、引き続き堅調に推移しました。また、ハイブリッド自動車や電気自動車の生産も引き続き堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。一方、薄型テレビ、パーソナルコンピューター及びハードディスクドライブ（HDD）の生産は前年同期とほぼ同水準で推移しました。

このような経営環境の中、当社グループの連結業績は、売上高208,653百万円（前年同期206,198百万円、前年同期比1.2%増）、営業利益9,223百万円（前年同期5,997百万円、前年同期比53.8%増）、継続事業税引前四半期純利益8,845百万円（前年同期3,695百万円、前年同期比139.4%増）、当社株主に帰属する四半期純利益4,471百万円（前年同期2,423百万円、前年同期比84.5%増）、1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益金額35円52銭（前年同期18円78銭）となりました。

なお、前連結会計年度に非継続となったディスプレイ事業に係る数値を組替え再表示しております。

当第1四半期連結累計期間における対米ドル及びユーロの期中平均為替レートは、80円27銭及び103円18銭と前年同期に比べ対米ドルで1.8%及び対ユーロで12.3%のそれぞれ円高となりました。この為替変動により、約52億円の減収、営業利益で約8億円の減益の影響を受けました。

当社グループの事業のセグメントは、前連結会計年度より「受動部品」、「磁気応用製品」及び「フィルム応用製品」の3つの報告セグメント及びそれらに属さない「その他」に分類しております。

前第1四半期連結累計期間の売上高について、現行のセグメントに基づき組替え再表示しております。

受動部品セグメントは、①コンデンサ事業 ②インダクティブデバイス事業 ③その他受動部品 で構成され、売上高は、91,480百万円（前年同期101,710百万円、前年同期比10.1%減）となりました。

当セグメントの売上概況を事業別に見ますと、次のとおりです。

コンデンサ事業は、セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ及びフィルムコンデンサから構成され、売上高は、31,434百万円（前年同期36,080百万円、前年同期比12.9%減）となりました。セラミックコンデンサの販売は、自動車市場向けで増加したものの、アルミ電解コンデンサ及びフィルムコンデンサの販売は、欧州地域における産業機器市場向けで減少しました。

インダクティブデバイス事業の売上高は、28,206百万円（前年同期32,879百万円、前年同期比14.2%減）となりました。自動車市場向けの販売が増加したものの、情報家電市場及び産業機器市場向けの販売が減少しました。

その他受動部品は、高周波部品、圧電材料部品・回路保護部品及びセンサで構成されており、売上高は、31,840百万円（前年同期32,751百万円、前年同期比2.8%減）となりました。高周波部品の販売が主に通信機器市場向けで減少しました。圧電材料部品・回路保護部品及びセンサの販売は、通信機器市場及び情報家電市場向けでそれぞれ増加しました。

磁気応用製品セグメントは、①記録デバイス事業 ②その他磁気応用製品 で構成され、売上高は、88,180百万円（前年同期79,599百万円、前年同期比10.8%増）となりました。

当セグメントの売上概況を事業別に見ますと、次のとおりです。

記録デバイス事業は、主にHDD用ヘッドとHDD用サスペンションから構成され、売上高は、59,926百万円（前年同期55,235百万円、前年同期比8.5%増）となりました。HDD用ヘッドの販売は、米ドルに対する円高の影響を受けたものの、販売数量が増加したことにより増収となりました。

その他磁気応用製品は、電源及びマグネットで構成されており、売上高は、28,254百万円（前年同期24,364百万円、前年同期比16.0%増）となりました。電源の販売は、自動車市場向けで増加したものの、産業機器市場向けで減少しました。一方、マグネットの販売は、自動車市場向けで大幅に増加しました。

フィルム応用製品セグメントは、エナジーデバイス（二次電池）及びアプライドフィルムで構成され、売上高は、23,232百万円（前年同期18,024百万円、前年同期比28.9%増）となりました。

当セグメントの売上概況を事業別に見ますと、次のとおりです。

エナジーデバイスの販売は、スマートフォンを中心とした通信機器市場及び情報家電市場向けの販売が大幅に増加しました。アプライドフィルムの販売は、情報家電市場向けで減少しました。

3つの報告セグメントに属さないその他は、メカトロニクス（製造設備）等で構成され、売上高は5,761百万円（前年同期6,865百万円、前年同期比16.1%減）となりました。

地域別売上高の状況は、次のとおりです。

国内における売上高は、前年同期の24,463百万円から20.9%増加の29,572百万円となりました。受動部品セグメント、磁気応用製品セグメントともに増加しました。

米州地域における売上高は、前年同期の21,405百万円から6.9%増加の22,887百万円となりました。受動部品セグメントが減少した一方、磁気応用製品セグメントは増加しました。

欧州地域における売上高は、前年同期の34,849百万円から20.3%減少の27,773百万円となりました。受動部品セグメントは減少しました。

中国における売上高は、前年同期の61,046百万円から28.2%減少の43,801百万円となりました。一部顧客の再編により、磁気応用製品セグメントに含まれる記録デバイス事業がアジア他の地域にシフトした他、受動部品セグメントが減少しました。

アジア他の地域における売上高は、前年同期の64,435百万円から31.3%増加の84,620百万円となりました。上記顧客の再編による中国からのシフトの他、フィルム応用製品セグメントが増加しました。

この結果、海外売上高の合計は、前年同期の181,735百万円から1.5%減少の179,081百万円となり、連結売上高に対する海外売上高の比率は、前年同期の88.1%から2.3ポイント減少し85.8%となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末比26,301百万円減少し、1,072,829百万円から1,046,528百万円となりました。

有形固定資産が7,770百万円並びにのれん及びその他の無形固定資産が5,996百万円それぞれ減少したことが、その主な要因です。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末比1,018百万円増加し、560,783百万円から561,801百万円となりました。

短期借入債務が10,817百万円増加した一方で、未払費用等が7,258百万円減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の純資産のうち株主資本は、前連結会計年度末比27,463百万円減少し、498,159百万円から470,696百万円となりました。

円高基調による外貨換算調整額の悪化を主因として、その他の包括利益（△損失）累計額が26,950百万円減少しました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得たキャッシュ・フローは、前年同期比7,410百万円増加し21,452百万円となりました。非支配持分控除前四半期純利益は2,666百万円増の5,082百万円、減価償却費は784百万円減の17,887百万円となりました。資産負債の増減において、売上債権が4,296百万円増加している一方、たな卸資産が8,009百万円、仕入債務が6,476百万円それぞれ減少しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期の収入から当第1四半期連結累計期間は支出に転じ、その変動額は27,681百万円となりました。前年同期は固定資産の取得26,786百万円、有価証券の取得3,126百万円等に対し、短期投資の売却及び償還39,773百万円等で7,335百万円の収入でしたが、当第1四半期連結累計期間は固定資産の売却等3,020百万円等に対し、固定資産の取得23,932百万円等で20,346百万円の支出となっております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって得たキャッシュ・フローは、前年同期比3,444百万円増加し4,425百万円となりました。短期借入債務の増減（純額）の増加3,188百万円が主たる増加要因となっております。

これらに為替変動の影響を加味した結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して1,284百万円減少し165,731百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は12,986百万円（売上高比6.2%）であります。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	480,000,000
計	480,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	129,590,659	129,590,659	東京証券取引所(市場第一部) ロンドン証券取引所	単元株式数 100株
計	129,590,659	129,590,659	—	—

(注) 1. ロンドン証券取引所は原株の振替決済方式により上場をしております。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成24年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価格修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	—	129,590,659	—	32,641	—	59,256

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 3,703,800	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 125,824,800	1,258,248	—
単元未満株式	普通株式 62,059	—	—
発行済株式総数	129,590,659	—	—
総株主の議決権	—	1,258,248	—

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
TDK株式会社	東京都中央区日本橋1-13-1	3,703,800	—	3,703,800	2.86
計	—	3,703,800	—	3,703,800	2.86

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成23年内閣府令第44号。）の規定による改正後の「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日)		当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日)	
区分	注記 番号	金額 (百万円)		金額 (百万円)	
(資産の部)					
流動資産					
現金及び現金同等物			167,015		165,731
短期投資			6,368		5,103
有価証券	注2		827		—
売上債権			177,861		173,986
たな卸資産	注4		137,231		140,216
その他の流動資産			56,519		51,395
流動資産合計			545,821		536,431
投資	注2 及び3		35,451		33,164
有形固定資産			332,325		324,555
のれん及びその他の無形固定資産	注10		108,575		102,579
その他の資産			50,657		49,799
資産合計			1,072,829		1,046,528

		前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
(負債及び純資産の部)			
流動負債			
短期借入債務		131,168	141,985
一年以内返済予定の長期借入 債務		11,729	11,348
仕入債務		87,666	90,099
未払費用等		73,271	66,013
その他の流動負債		22,069	24,492
流動負債合計		325,903	333,937
固定負債			
長期借入債務 (一年以内返済 予定分を除く)		129,943	127,375
未払退職年金費用		88,254	84,725
その他の固定負債		16,683	15,764
固定負債合計		234,880	227,864
負債合計		560,783	561,801
株主資本			
資本金		32,641	32,641
(授權株式数)		(480,000,000)	(480,000,000)
(発行済株式総数)		(129,590,659)	(129,590,659)
(発行済株式数)		(125,886,827)	(125,886,401)
資本剰余金		63,927	63,980
利益準備金		23,803	23,981
その他の利益剰余金		627,861	627,119
その他の包括利益 (△損失) 累計額	注11	△ 230,849	△ 257,799
自己株式		△ 19,224	△ 19,226
(自己株式数)		(3,703,832)	(3,704,258)
株主資本合計		498,159	470,696
非支配持分	注11	13,887	14,031
純資産合計		512,046	484,727
負債及び純資産合計		1,072,829	1,046,528

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

第1四半期連結累計期間

		前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
売上高		206,198	208,653
売上原価		156,765	162,371
売上総利益		49,433	46,282
販売費及び一般管理費		43,436	37,059
営業利益		5,997	9,223
営業外損益			
受取利息及び受取配当金		358	709
支払利息		△ 765	△ 717
為替差(△損)益		△ 601	162
その他		△ 1,294	△ 532
営業外損益合計		△ 2,302	△ 378
継続事業税引前四半期純利益		3,695	8,845
法人税等		911	3,763
継続事業非支配持分控除前 四半期純利益		2,784	5,082
非継続事業非支配持分控除前 四半期純損失		△ 368	—
非支配持分控除前 四半期純利益		2,416	5,082
非支配持分帰属利益(△損失)		△ 7	611
当社株主に帰属する 四半期純利益		2,423	4,471

1株当たり指標			
当社株主に帰属する 四半期純利益:	注12		
基本		18.78円	35.52円
希薄化後		18.77円	34.71円
現金配当金		40円	40円

【四半期連結包括利益計算書】

第1四半期連結累計期間

		前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
非支配持分控除前四半期純利益		2,416	5,082
その他の包括利益(△損失)			
—税効果調整後:			
外貨換算調整額		△ 6,906	△ 26,444
年金債務調整額		3,094	360
有価証券未実現利益(△損失)		△ 915	△ 1,289
その他の包括利益(△損失)合計		△ 4,727	△ 27,373
四半期包括利益(△損失)	注11	△ 2,311	△ 22,291
非支配持分帰属 四半期包括利益(△損失)		△ 29	188
当社株主に帰属する 四半期包括利益(△損失)		△ 2,282	△ 22,479

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

		前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
非支配持分控除前四半期純利益		2,416	5,082
営業活動による純現金収入との調整			
減価償却費		18,671	17,887
資産負債の増減			
売上債権の減少 (△増加)		393	△ 3,903
たな卸資産の減少 (△増加)		△ 16,008	△ 7,999
仕入債務の増加 (△減少)		13,713	7,237
未払費用等の増加 (△減少)		△ 3,682	△ 1,724
その他の資産負債の増減 (純額)		△ 3,584	3,062
その他		2,123	1,810
営業活動による純現金収入		14,042	21,452
投資活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産の取得		△ 26,786	△ 23,932
短期投資の売却及び償還		39,773	2,031
短期投資の取得		△ 2,495	△ 1,100
有価証券の取得		△ 3,126	△ 201
固定資産の売却等		977	3,020
その他		△ 1,008	△ 164
投資活動による純現金収入 (△支出)		7,335	△ 20,346
財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入債務の返済額		△ 2,679	△ 2,591
短期借入債務の増減 (純額)		8,619	11,807
配当金支払		△ 4,972	△ 4,838
その他		13	47
財務活動による純現金収入		981	4,425
為替変動による現金及び現金同等物への影響額		△ 2,801	△ 6,815
現金及び現金同等物の増加 (△減少)		19,557	△ 1,284
現金及び現金同等物の期首残高		129,091	167,015
現金及び現金同等物の四半期末残高		148,648	165,731

注記事項

(注1) 重要な会計方針の概要

(1) 連結方針

当社の四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成しており、すべての子会社及び当社が主たる受益者となる変動持分事業体を含んでおります。すべての重要な連結会社間債権債務及び取引は、連結上相殺消去されております。

20%以上50%以下の持分を所有し、当社が被投資会社の経営及び財務状況に重要な影響を及ぼすと判断された投資は、持分法により評価しております。すべての重要な持分法適用会社からの未実現利益は、連結上消去されております。

当社は、昭和49年7月に米国預託証券を発行するにあたり、米国式連結財務諸表を作成し、米国証券取引委員会に登録しました。昭和51年7月ナスダックに株式を登録し、昭和57年6月からはニューヨーク証券取引所に米国預託証券を上場しておりましたが、平成21年4月7日に同証券取引所に対し上場廃止の申請を行い、同月27日に上場廃止となりました。その後、米国証券取引委員会に対し登録廃止を申請し、平成21年7月に登録廃止となっております。

なお、当社が採用している会計処理の原則及び手続並びに表示方法のうち、我が国の四半期連結財務諸表規則に準拠した場合と異なるもので主要なものは次のとおりであります。

(イ) 退職給付及び年金制度については、未償却の年金数理計算上の純損益及び過去勤務債務を連結貸借対照表上で認識し、対応する調整を税効果調整後でその他の包括利益(△損失)累計額に計上するとともに、年金数理計算上の純損益は、コリドーアプローチ(回廊方式)により従業員の平均残存勤務期間にわたって償却しております。

(ロ) 新株引受権付社債の発行額のうち、新株引受権の対価であるとみなされた金額は、資本剰余金に計上しております。また、社債発行差額から通貨スワップによる差益を控除し、控除後の金額は社債の期間にわたって利息法で償却しております。

(ハ) のれんについては償却を行わず、少なくとも年に一度、あるいは減損の兆候があった場合はより頻繁に、減損テストを行っております。

無形固定資産について、耐用年数が確定できない無形固定資産の償却は行わず、耐用年数が明らかになるまで少なくとも年に一度、あるいは減損の兆候があった場合はより頻繁に、減損テストを行っております。

(ニ) 非継続事業に係る経営成績は、四半期連結損益計算書上、非継続事業として区分表示しております。これに伴い、連結財務諸表注記のうち、四半期連結損益計算書関連の注記については、特段の記載のある場合を除き、非継続事業の数値を除外しております。

(ホ) 親会社以外が保有する子会社における所有持分、親会社及び非支配持分へ帰属する連結上の当期純利益の金額、親会社の所有持分の変動等、親会社持分と非支配持分とを明確に特定し連結財務諸表において識別しております。また、支配獲得後の持分変動における支配喪失を伴わない取引については、資本取引として処理しております。

(2) 新会計基準の適用

包括利益の表示

平成23年6月に、米国財務会計基準審議会は会計基準アップデート(“ASU”)2011-05「包括利益の表示」を発行しました。

ASU 2011-05は、純損益及び包括利益の項目を単一の計算書、または分割された2つの連続する計算書のいずれかで表示することを要求しており、公開企業に対しては、平成23年12月16日以降開始する年次報告期間から遡及的に適用されます。

なお、ASU 2011-05の適用による当社の経営成績及び財政状態への重要な影響はありません。

(3) 後発事象

当社は、後発事象の評価を財務諸表の公表が可能になった平成24年8月9日まで実施しております。

(4) 組替

当四半期連結財務諸表の表示に合わせるため、過年度の連結財務諸表及び四半期連結財務諸表の組替を行っております。

(注2) 有価証券及び投資

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在の有価証券及び投資は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)
有価証券	827	—
投資：		
投資有価証券	17,757	15,737
時価のない有価証券	661	798
関連会社投資(注3)	17,033	16,629
小計	35,451	33,164
合計	36,278	33,164

有価証券及び投資には、売却可能有価証券が含まれております。当該有価証券に関する平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在の情報は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)			公正価値
	取得原価	総未実現利益	総未実現損失	
有価証券(負債証券)：				
米国国債	825	2	—	827
投資(負債証券)：				
国債	896	2	—	898
コマーシャルペーパー	56	6	—	62
公共事業債	3	—	—	3
投資(持分証券)：				
製造業	11,910	3,281	552	14,639
その他	1,159	74	—	1,233
投資(投資信託)	904	42	24	922
合計	15,753	3,407	576	18,584

(単位 百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)			公正価値
	取得原価	総未実現利益	総未実現損失	
投資(負債証券)：				
国債	897	2	—	899
コマーシャルペーパー	53	8	—	61
公共事業債	2	—	—	2
投資(持分証券)：				
製造業	11,567	2,306	1,099	12,774
その他	1,158	12	24	1,146
投資(投資信託)	859	41	45	855
合計	14,536	2,369	1,168	15,737

平成24年6月30日現在、売却可能有価証券に区分されている負債証券の満期は、加重平均残存期間1.6年以内に到来します。

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却及び償還による収入は、それぞれ33百万円及び823百万円であります。売却可能有価証券の売却に伴う実現損益は、平均原価法で算定し、損益に反映しております。前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間において、一部の売却可能有価証券を公正価値まで減損し、それぞれ690百万円及び130百万円の減損損失を計上しました。

平成24年6月30日現在、売却可能有価証券に関する未実現損失が継続的に生じている期間は12ヶ月未満であります。

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在、原価法で評価した時価のない有価証券をそれぞれ合計661百万円及び798百万円保有しております。平成24年3月31日時点においては一部について、平成24年6月30日時点においてはすべてについて、(1)投資の公正価値を合理的に見積もることが実務上困難なことからその見積もりを行っていない、(2)投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼすと考えられる事象や状況の変化が見られなかったことにより、減損の評価を行っておりません。

平成24年6月30日現在、関税支払期日延長を目的として、899百万円の負債証券を東京税関他に対し担保供出してあります。

(注3) 関連会社に対する投資

当社は、平成23年6月に米国イメーション社の普通株式を一部売却しました。売却に伴う収入及び損益の金額に重要性はありません。

これに伴い、当社及び子会社による同社普通株式への出資が20%未満となったため、米国財務会計基準審議会会計基準編纂書（“ASC”）323「投資—持分法及びジョイントベンチャー」の規定に基づき、同社を同年同月付で関連会社から除外しました。

(注4) たな卸資産

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在のたな卸資産は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)
製品	53,861	54,249
仕掛品	31,943	32,446
原材料	51,427	53,521
合計	137,231	140,216

(注5) 退職年金費用

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間における期間純年金費用（非継続事業含む）は、以下の項目から構成されております。

(単位 百万円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
勤務費用—期間稼得給付	1,526	1,597
予測給付債務の利息費用	1,347	1,235
年金資産の期待運用収益	△ 856	△ 870
数理差異の償却費用	946	1,196
過去勤務債務の償却費用	△ 508	△ 508
制度の縮小及び清算による損失	3,216	-
合計	5,671	2,650

(注6) 偶発債務

当社は、従業員の借入金に対する債務保証を行っております。保証の対象は住宅購入のための借入資金であり、仮に従業員が債務不履行に陥った場合は当社が代位弁済を求められることになります。

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在、債務不履行が発生した場合、当社が負担する割引前最高支払額は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)
従業員の借入金に対する保証債務	2,743	2,586

平成24年6月30日現在、当社が行った債務保証に対して見積公正価額に基づき計上した負債額は重要ではありません。

また当社及び一部の子会社に対して、係争中の案件があります。しかし顧問弁護士の意見も参考にして、当社の経営者は、当社の連結財政状態及び経営成績に重要な影響を与える追加債務はないと考えております。

(注7) リスクマネジメント及びデリバティブ金融商品

当社及び子会社は国際的に事業を営んでおり、外国為替相場の変動リスクにさらされております。当社及び子会社は、外国為替相場の変動を継続的に注視すること及びヘッジ機会を検討することによって、これらのリスクを評価しております。当社及び子会社は、それらのリスクを軽減するためデリバティブ金融商品を活用しております。当社及び子会社は、デリバティブ金融商品をトレーディング目的として保有または発行していません。当社及び子会社は、これらの金融商品の取引相手が契約を履行しない場合の信用関連リスクにさらされておりますが、これらの取引相手の信用格付等を考慮しますと、当社及び子会社はいずれの取引相手もその義務を履行することができると考えております。これらの金融商品に係る信用リスクは、当該契約の公正価値で表されます。また、当該契約の公正価値は、金融機関等より提示された相場を基に算定しております。

当社及び子会社は、主に外貨建て資産及び負債並びに予定取引に係る為替リスクを管理するために、先物為替予約契約及び通貨スワップ契約を締結しております。これらの契約はヘッジ会計を適用するために必要とされているヘッジ指定をしておりませんが、経済的な観点からはヘッジとして有効と判断しております。ヘッジ指定していないこれらの契約の公正価値は、ただちに収益または費用として認識されます。

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在における金融派生商品の残高は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)	当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)
先物為替予約	35,579	51,727
通貨スワップ	48,915	38,010
	84,494	89,737

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在における金融派生商品の公正価値は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

前連結会計年度末

(平成24年3月31日現在)

	科目	公正価値
資産：		
先物為替予約	その他の流動資産	260
通貨スワップ	その他の流動資産	958
通貨スワップ	その他の資産	186
資産合計		1,404
負債：		
先物為替予約	その他の流動負債	523
通貨スワップ	その他の流動負債	530
負債合計		1,053

当第1四半期連結会計期間末

(平成24年6月30日現在)

	科目	公正価値
資産：		
先物為替予約	その他の流動資産	662
通貨スワップ	その他の流動資産	1,376
通貨スワップ	その他の資産	304
資産合計		2,342
負債：		
先物為替予約	その他の流動負債	316
通貨スワップ	その他の固定負債	32
負債合計		348

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間における金融派生商品の四半期連結損益計算書への影響は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	科目	デリバティブ(△損) 益認識額	
		前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
先物為替予約	為替差(△損) 益	105	347
通貨スワップ	為替差(△損) 益	△ 241	1,611
		△ 136	1,958

(注8) 金融商品の公正価値

公正価値の見積もりが可能な金融商品につき、その見積もりに用いられた方法及び仮定は次のとおりであります。

- (1) 現金及び現金同等物、短期投資、売上債権、その他の流動資産、短期借入債務、仕入債務、未払費用等及びその他の流動負債

これらの金融商品（デリバティブ金融商品を除く）は期日が短く、帳簿価額がほぼ公正価値に等しくなっております。

- (2) 有価証券及び投資

有価証券及び投資の公正価値は、その取引相場を基に算定しております。取引所の相場のない有価証券及び投資のうち一部については、過度の費用を負担することなく公正価値を合理的に見積もることはできませんでした。

- (3) 長期借入債務

長期借入債務の公正価値は、それぞれの長期借入債務の将来のキャッシュ・フローを、同様の期日をもった類似の借入を当社が決算日に行った場合の借入利率で割引いた金額または、同一または類似債券の取引所の相場を基に見積もっており、（注9）のレベル2に分類しております。

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在、金融商品の帳簿価額と公正価値の見積額は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)		当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
資産：				
有価証券：				
公正価値の見積もりが可能なもの	827	827	—	—
投資及びその他の資産：				
公正価値の見積もりが可能なもの	27,591	27,591	25,885	25,885
公正価値の見積もりが実務上困難なもの	553	—	852	—
負債：				
1年以内返済予定分を含む長期借入債務	△ 141,672	△ 143,745	△ 138,723	△ 140,760

デリバティブ金融商品は、（注7）に記載しております。

公正価値の見積もりの限界

公正価値の見積もりは、関連するマーケット情報や金融商品に関する情報に基づき、特定の時点を基準に行われております。こうした見積もりは、その性格上主観的であり、不確定要素や相当の判断が介入する余地を有しております。したがって、正確さを求めることはできません。仮定が変更されれば、見積額に重要な影響を与えることもあり得ます。

(注9) 公正価値の測定と開示

A S C 820「公正価値の測定と開示」は、公正価値をその資産または負債に関する主要なまたは最も有利な市場において測定日における市場参加者間の秩序ある取引により資産を売却して受け取るであろう価格、または負債を移転するために支払うであろう価格と定義しております。A S C 820 は、公正価値の測定に使用されるインプットの優先順位を付ける公正価値の階層を3つのレベルとし、次のとおり定めております。

- レベル1・・・当社が測定日に入手可能な、活発な市場における同一の資産または負債の調整不要な取引価格
レベル2・・・“レベル1”に属する取引価格以外で、直接的あるいは間接的にその資産または負債に関連して市場から入手可能なインプット
レベル3・・・その資産または負債に関連する観察不能なインプット

経常的に公正価値で測定される資産及び負債

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在における経常的に公正価値で測定される資産及び負債は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)			合 計
	レベル1	レベル2	レベル3	
資 産：				
有価証券（負債証券）：				
米国国債	827	—	—	827
金融派生商品：				
先物為替予約	—	260	—	260
通貨スワップ	—	1,144	—	1,144
投資（負債証券）：				
国債	898	—	—	898
コマーシャルペーパー	—	62	—	62
公共事業債	3	—	—	3
投資（持分証券）：				
製造業	14,639	—	—	14,639
その他	1,233	—	—	1,233
投資（投資信託）	922	—	—	922
信託資金投資	3,810	—	—	3,810
資産 合計	22,332	1,466	—	23,798
負 債：				
金融派生商品：				
先物為替予約	—	523	—	523
通貨スワップ	—	530	—	530
負債 合計	—	1,053	—	1,053

(単位 百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成24年6月30日現在)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資 産：				
金融派生商品：				
先物為替予約	—	662	—	662
通貨スワップ	—	1,680	—	1,680
投資（負債証券）：				
国債	899	—	—	899
コマーシャルペーパー	—	61	—	61
公共事業債	2	—	—	2
投資（持分証券）：				
製造業	12,774	—	—	12,774
その他	1,146	—	—	1,146
投資（投資信託）	855	—	—	855
信託資金投資	3,660	—	—	3,660
資産 合計	19,336	2,403	—	21,739
負 債：				
金融派生商品：				
先物為替予約	—	316	—	316
通貨スワップ	—	32	—	32
負債 合計	—	348	—	348

レベル1の有価証券及び投資は、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価しております。信託資金投資はその他の資産に含まれ、従業員給与の一部を預かり、調整不要な市場価格を有する金融商品で投資運用を行っている残高であります。

レベル2の金融派生商品は先物為替予約及び通貨スワップによるものであり、取引相手方から入手した相場価格に基づき評価され、外国為替レート等の観察可能な市場インプットに基づき検証しております。また、投資はコマーシャルペーパーであり、観察可能な市場データによる第三者機関の評価に基づいた公正価値を認識しております。

(注10) のれん及びその他の無形固定資産

平成24年3月31日及び平成24年6月30日現在におけるのれんを除く無形固定資産の状況は、次のとおりであります。

(単位 百万円)

	前連結会計年度末 (平成24年3月31日現在)			当第1四半期連結会計期間末 (平成24年6月30日現在)		
	取得価額	償却累計額	帳簿価額	取得価額	償却累計額	帳簿価額
償却無形固定資産：						
特許権	43,097	21,424	21,673	41,718	20,776	20,942
顧客関係	21,579	13,234	8,345	20,605	12,839	7,766
ソフトウェア	19,259	8,947	10,312	18,263	8,023	10,240
特許以外の技術	27,637	18,245	9,392	26,349	18,081	8,268
その他	5,018	867	4,151	4,779	861	3,918
合計	116,590	62,717	53,873	111,714	60,580	51,134
非償却無形固定資産：						
商標権	7,135		7,135	6,822		6,822
その他	254		254	254		254
合計	7,389		7,389	7,076		7,076

前連結会計年度及び当第1四半期連結累計期間における、のれんを除く無形固定資産の重要な取得はありません。

償却対象の無形固定資産は、見積耐用年数にわたり残存簿価がゼロになるまで定額法で償却されます。当第1四半期連結累計期間における償却費用は、2,717百万円であります。

また、のれんについては、当第1四半期連結累計期間において重要な変動はありません。

(注11) 純資産

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間における連結貸借対照表の株主資本、非支配持分及び純資産の帳簿価額の変動は、次のとおりであります。

	(単位 百万円)		
	株主資本	非支配持分	純資産合計
平成23年3月31日現在	534,273	5,493	539,766
連結子会社による資本取引及びその他	156	—	156
包括利益(△損失)：			
四半期純利益(△損失)	2,423	△ 7	2,416
その他の包括利益(△損失) — 税効果調整後			
外貨換算調整額	△ 6,884	△ 22	△ 6,906
年金債務調整額	3,094	0	3,094
有価証券未実現利益(△損失)	△ 915	0	△ 915
その他の包括利益(△損失) 合計	△ 4,705	△ 22	△ 4,727
四半期包括利益(△損失)	△ 2,282	△ 29	△ 2,311
配当金	△ 5,160	△ 70	△ 5,230
平成23年6月30日現在	526,987	5,394	532,381

	(単位 百万円)		
	株主資本	非支配持分	純資産合計
平成24年3月31日現在	498,159	13,887	512,046
連結子会社による資本取引及びその他	51	10	61
包括利益(△損失)：			
四半期純利益	4,471	611	5,082
その他の包括利益(△損失) — 税効果調整後			
外貨換算調整額	△ 26,021	△ 423	△ 26,444
年金債務調整額	360	△ 0	360
有価証券未実現利益(△損失)	△ 1,289	△ 0	△ 1,289
その他の包括利益(△損失) 合計	△ 26,950	△ 423	△ 27,373
四半期包括利益(△損失)	△ 22,479	188	△ 22,291
配当金	△ 5,035	△ 54	△ 5,089
平成24年6月30日現在	470,696	14,031	484,727

(注12) 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

基本及び希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算における分子及び分母の調整は、次のとおりであります。

	(単位 百万円)			
	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間	
	基本	希薄化後	基本	希薄化後
当社株主に帰属する継続事業四半期純利益	2,722	2,722	4,471	4,375
当社株主に帰属する非継続事業四半期純損失	△ 299	△ 299	—	—
当社株主に帰属する四半期純利益	2,423	2,423	4,471	4,375

	(単位 千株)			
	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間	
	基本	希薄化後	基本	希薄化後
加重平均発行済普通株式数	128,997	128,997	125,886	125,886
ストックオプション行使による増加株式数	—	125	—	152
加重平均発行済普通株式数—合計	128,997	129,122	125,886	126,038

	(単位 円)			
	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間	
	基本	希薄化後	基本	希薄化後
1株当たり当社株主に帰属する 継続事業四半期純利益	21.10	21.08	35.52	34.71
1株当たり当社株主に帰属する 非継続事業四半期純損失	△ 2.32	△ 2.32	—	—
1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	18.78	18.77	35.52	34.71

前第1四半期連結累計期間における希薄化後1株当たり当社株主に帰属する非継続事業四半期純損失の算定において、ストックオプション行使による増加株式数12万5,000株は、希薄化効果を有していないため算定には含めておりません。また、当第1四半期連結累計期間における当社株主に帰属する継続事業四半期純利益及び当社株主に帰属する四半期純利益に対する希薄化は、連結子会社が発行するストックオプションの行使を仮定した場合の利益の減少により生じております。

なお、1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、当社株主に帰属する継続事業四半期純利益、当社株主に帰属する非継続事業四半期純損失及び当社株主に帰属する四半期純利益についてそれぞれ独立して算定しているため、前第1四半期連結累計期間における希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する継続事業四半期純利益と希薄化後1株当たり当社株主に帰属する非継続事業四半期純損失との合計とはなっておりません。

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間において、一部のストックオプションは、その影響が希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する継続事業四半期純利益、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する非継続事業四半期純損失及び希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の算定に含めておりません。なお、ある特定の業績条件を達成した際に権利確定となる子会社のストックオプションについても、平成24年6月30日現在においては、その条件の達成可能性が確からしくないため、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する継続事業四半期純利益及び希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の算定に含めておりません。

(注13) セグメント情報

事業の種類別セグメント情報

当社における事業セグメントは、当社の構成単位のうち独立した財務情報が入手可能で、マネジメントが経営資源の配分決定や業績の評価を行う際、定常的に用いている区分であります。

当社は前連結会計年度より、製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性により複数の事業セグメントを「受動部品」、「磁気応用製品」及び「フィルム応用製品」の3つの報告セグメントに集約しております。また、報告セグメントに該当しない事業セグメントを「その他」としております。

従前「磁気応用製品」に属しておりました記録メディアは、一部製品の終息及びセパレータ事業の買収によりその主要製品が機能性フィルム製品へとシフトしていることから、前連結会計年度よりアプライドフィルムと名称を変更し、コア技術や市場等において類似性があるエナジーデバイスと合わせて、報告セグメント「フィルム応用製品」として表示しております。これまでエナジーデバイスは「その他」に属しておりました。

なお、ASC 205-20「財務諸表の表示－非継続事業」の規定に基づき、前連結会計年度に非継続となったディスプレイ事業に係る数値を除外しております。

上記に伴い、前第1四半期連結累計期間の数値についても現行のセグメントに基づき表示しております。

セグメント区分とそれを構成する主な事業は、次のとおりであります。

区分	構成する主な事業
受動部品	セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、インダクティブデバイス（コイル、フェライトコア、トランス）、高周波部品、圧電材料部品・回路保護部品、センサ
磁気応用製品	記録デバイス、電源、マグネット
フィルム応用製品	エナジーデバイス（二次電池）、アプライドフィルム（旧 記録メディア）
その他	メカトロニクス（製造設備）等

事業の種類別セグメントにおけるセグメント間取引は、独立企業間価格に基づいております。

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間における事業の種類別セグメント情報は、次のとおりであります。

売上高

	(単位 百万円)	
	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
受動部品：		
外部顧客に対する売上高	101,710	91,480
セグメント間取引	826	738
計	102,536	92,218
磁気応用製品：		
外部顧客に対する売上高	79,599	88,180
セグメント間取引	82	161
計	79,681	88,341
フィルム応用製品：		
外部顧客に対する売上高	18,024	23,232
セグメント間取引	1,037	820
計	19,061	24,052
その他：		
外部顧客に対する売上高	6,865	5,761
セグメント間取引	5,848	4,975
計	12,713	10,736
セグメント間取引消去	△ 7,793	△ 6,694
合計	206,198	208,653

セグメント利益（△損失）

	(単位 百万円)	
	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
受動部品	3,775	△ 2,867
磁気応用製品	8,576	14,570
フィルム応用製品	1,226	2,110
その他	△ 394	△ 427
小計	13,183	13,386
全社及び消去	△ 7,186	△ 4,163
営業利益	5,997	9,223
営業外損益（純額）	△ 2,302	△ 378
継続事業税引前四半期純利益	3,695	8,845

セグメント利益（△損失）は、純売上高から本社部門損益以外の売上原価と販売費及び一般管理費を差し引いたものであります。

全社に含まれる費用は主として、本社機能部門における全社の運営、管理目的の費用のうち、セグメントに配賦していない費用であります。

地域別セグメント情報

前第1四半期及び当第1四半期連結累計期間における地域別セグメント情報は、次のとおりです。

売上高

	(単位 百万円)	
	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
日本	24,463	29,572
米州	21,405	22,887
欧州	34,849	27,773
中国	61,046	43,801
アジア他	64,435	84,620
合計	206,198	208,653

当売上高は、外部顧客の所在地に基づいております。

各区分に属する主な国または地域は、次のとおりであります。

- (1) 米州 ・ ・ ・ ・ ・ 米国
- (2) 欧州 ・ ・ ・ ・ ・ ドイツ、ハンガリー、フランス
- (3) アジア他 ・ ・ ・ ・ ・ タイ、台湾、マレーシア、韓国、フィリピン

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月9日

T D K株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 弘 行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小尾 淳 一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐々木 雅 広 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているT D K株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記事項について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項（注1）（1）参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表の注記事項（注1）（1）参照）に準拠して、T D K株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。